



洪水ハザードマップ

目頃の備えと、いざという時のために



わが家の防災メモ

わが家の避難所		わが家の集合場所	
名前	血液型	電話番号	会社・学校名
家族の連絡先	名	血液型	電話番号
名	血液型	電話番号	会社・学校名
会社・学校の連絡先	会社・学校の連絡先	会社・学校の連絡先	会社・学校の連絡先
その他の連絡先			

蓮田市役所 危機管理課 住所：〒349-0193 埼玉県蓮田市大字黒浜 2799-1
電話：048-768-3111 (代表) 発行：令和2年3月

日頃の備え

いのちや財産を守るために、一人ひとり、あるいは家族が協力し、普段から備えておく必要があります。安全性をチェックし、補強や清掃を行っておきましょう。また、ライフラインが止まって3日間程度(推奨7日間)自力で生活できるよう、備蓄をしておきましょう。

家屋の防災対策

- アンテナや煙突などの補強をする。
- 屋根瓦のずれなどを補修して飛ばされないようにする。
- 雨樋の掃除をする。
- 手を取り込み、ベランダなどの小物を全て取り込む。手すりも壊れていたら修理する。
- 古い雨戸は、飛ばされないように筋交いをつけたり、つっかい棒をあてがったりして、応急の補強をする。
- 浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は2階や高い安全な場所に移動する。
- 近所の側溝や雨水ますが詰まっているか確認し、清掃する。
- プロパンガスボンベはしっかりと固定する。
- 建物の周囲にある風に飛ばされそうな物を取り込む。

非常用持ち出し品・備蓄品の準備

大規模災害時に被災地で救援物資が届くには、おおむね3日かかるとわれています。**非常用持ち出し品**は必要最低限のものをリュックサックなどにまとめ、すぐ持ち出せる場所に保管しておきましょう。**備蓄品**は、ライフラインが復旧するまで自給自足ののに必要な物です。保存や使用(賞味)期限などを定期的に点検・交換しましょう。最低でも**3日間(推奨1週間)**必要な**食料・物資**を用意しましょう。

家庭環境に応じて、必要なものを用意しましょう。

- 乳幼児がいる家庭
- 高齢者がいる家庭
- 要介護者がいる家庭
- ピニール、離乳食、おむつなど
- ミルク、哺乳瓶、清潔な布、新生児用品
- おむつ、授乳手帳など
- おむつ、障害者手帳、補助具などの予備、常備薬など

調理器具

- ナイフ・包丁
- 簡易食器・スプーン
- ラップ
- ピニール袋
- 燃料(卓上コンロ、固形燃料など)

衛生用品

- マスク
- ウェットティッシュ
- ティッシュ
- 歯磨き用具
- 簡易トイレ
- タオル

生活用品

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備の電池、バッテリー
- ライター・マッチ
- ロープ
- 布ガムテープ
- 軍手
- レジャーシート
- レインコート
- スニーカー
- マーカーペン・筆記具
- カイロ

救急用品

- 各種医薬品(常備薬も)
- はさみ
- 消毒液
- 救急セット
- 救急ばんそうこう
- 簡易トイレ
- タオル

非常用持ち出し品

- 飲料水 携帯食料
- 携帯電話の充電機(電池式)
- 現金(公衆電話用に10円硬貨)
- 携帯トイレ
- 身分証明書(健康保険証、免許証、パスポートなど)

備蓄品

- 水 1日1人3リットル×家族人数×3日=わが家では リットルの水を用意
- 食料
- 調理器具
- 衛生用品
- 生活用品

◆埼玉県ホームページ「ITツモ防災」防災マニュアルブック

埼玉県 ITツモ防災 検索

備蓄方法や災害時のトイレ対策などが紹介されていますので参考にしてください。

水害について

水害は地震よりも事前予報がしやすいので、比較的対策をたてやすい災害です。起こりうる水害を理解し、発令される情報に的確な判断をしましょう。

想定されている水害

外水氾濫

「外水」とは、堤防の隙を流れる河川の水のことをいいます。大雨などで河川の水位が増し、堤防の決壊や越流などで大量の水が市街地等に流れ込み、短時間で住宅などへ浸水して人的・物的被害が発生させます。

内水氾濫

河川の水を「外水」と呼ぶのに対し、市街地など堤防で守られた土地にある水のことを「内水」と呼びます。下水道などの排水能力を超える大雨や、河川の水位が上昇することで「内水」が排水できず、マンホールなどから水が溢れ、土地や道路などに浸水することを「内水氾濫」といいます。

アンダーパス部の冠水

急激な大雨で、ポンプや排水路などの排水能力を超えた場合に、アンダーパス(道路や鉄道などの地下をくぐって抜ける道路で、周囲に比べて地面が低くなっている区間)が冠水することがあります。

アンダーパスが浸水している場所に車で進入すると、エンジンが停止して立往生してしまい、浸水するなど大変危険です。

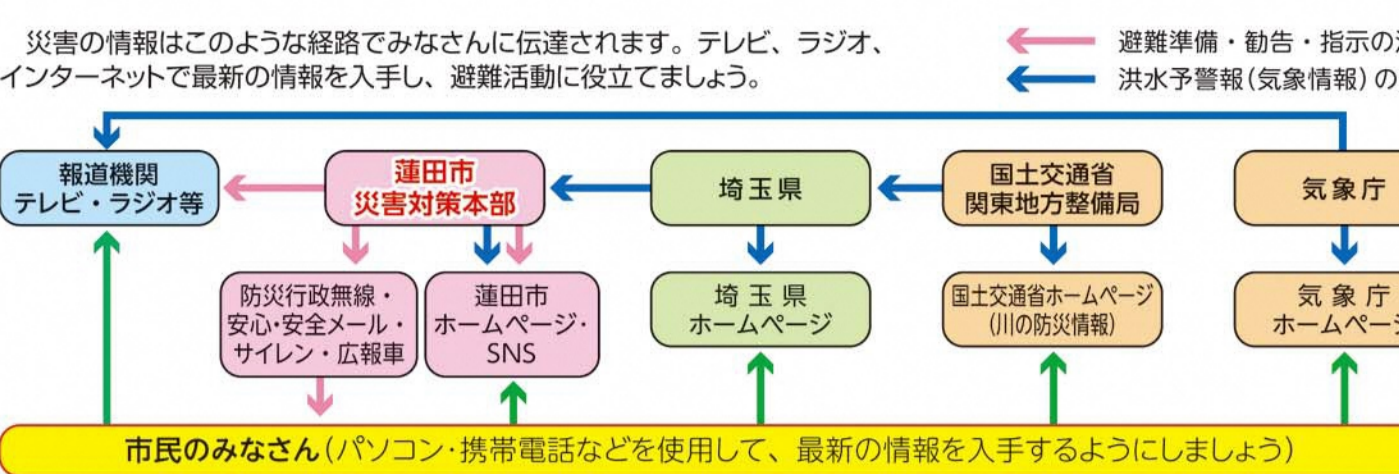
雨の降り方と雨量の関係

予報用語 1時間雨量(mm)	やや強い雨 10~20mm	強い雨 20~30mm	激しい雨 30~50mm	非常に激しい雨 50~80mm	猛烈な雨 80mm以上
人への影響	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返すように降る	滝のように降る(ゴゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
屋外の様子	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる
車の運転は	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間で水膜が厚くなりブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	車の運転は危険	車の運転は危険

気象情報・避難情報

水害から身を守るために、気象情報や避難情報を入手しましょう。気象情報で大雨や台風の予報やゲリラ豪雨などの情報を入手したら、信頼できる情報源から最新の情報を継続して入手し、避難へ備えましょう。

洪水予報・避難情報の伝達経路



水害時に入手する情報

蓮田市は様々な情報をもとに、避難情報を発令する判断を行います。必ずしも気象情報と同じレベルの避難情報が発令されるわけではありません。自らの命は自ら守る意識を持って、気象情報も参考にしながら、適切な避難行動をとってください。

気象情報とは
台風や大雨に関する情報です。気象庁から発表されます。テレビやホームページなどから新しい情報を入手するようにしましょう。

指定河川洪水情報とは
水位の情報です。避難行動や水防活動の判断目安になります。発表基準は下記に掲載。

避難情報とは
避難の準備や開始のタイミングの目安となる情報です。蓮田市が発令します。市のホームページや防災行政無線などで確認しましょう。テレビやラジオ等の情報は、蓮田市だけではなく、より広範囲な情報になります。

警戒レベル	危険度	気象情報等	指定河川洪水情報	避難情報等	とるべき行動
5	極めて危険	大雨特別警報	氾濫発生情報	災害発生情報	●すでに災害が発生しています。いのちを守るための最善の行動をとりましょう。
4	非常に危険	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報	避難指示(緊急)	●冠水や土砂崩れなど、避難が困難になっているおそれがあります。
3	警戒	大雨警報	氾濫警戒情報	避難勧告	●速やかに避難を!!!
2	注意	大雨注意報	氾濫注意情報	避難準備・高齢者等避難開始	●高齢者等は速やかに避難を。
1		早期注意情報			●ハザードマップ等で避難場所や危険な区域を再確認しましょう。

◆洪水情報の発表基準

	荒川水位(治水水位観測所)	利根川水位(治水水位観測所)	小山川水位(治水水位観測所)
氾濫危険水位	12.60m	8.90m	38.70m
避難警戒水位	12.10m	8.10m	38.00m
氾濫注意水位	7.50m	5.00m	36.50m
水防団待機水位	7.00m	2.70m	35.60m

情報の入手・災害時の連絡方法

災害に対して適切に対応するには、正確な情報の収集が必要です。テレビやラジオなど報道機関のほかに、ホームページやSNS、市役所からの呼びかけにも注意して、最新の情報を把握しましょう。

市が発信する情報を入手 避難指示や避難所開設など、蓮田市の情報はこちらで入手しましょう。

- ◆蓮田市公式ホームページ <https://www.city.hasuda.saitama.jp/> 避難情報や避難所の開設状況など、市内を中心とする情報
- ◆蓮田市公式Twitter http://twitter.com/Hasuda_City 名前: 蓮田市 ユーザー名(ID): @Hasuda_City
- ◆蓮田市「安心・安全メール」(事前登録が必要です) 蓮田市の防災行政無線で放送した内容(防災・防犯・イベント情報)をメールで受信できます。登録料は無料ですが通話料は利用者の負担となります。登録用メールアドレス(t-hasuda@sg-m.jp)に空メールを送信後、受信した登録用返信メールの指示にしたがって登録してください。
- ◆防災行政無線 避難勧告などの避難情報は防災行政無線で呼びかけます。音声を確認できなかった場合、市のホームページや蓮田市「安心・安全メール」・防災放送送迎ダイヤル(24時間以内、電話048-765-8671)で確認できます。
- ◆緊急速報メール・エリアメール 事前登録は不要。市内にいる方のNTTドコモ、au、ソフトバンクの携帯電話、スマートフォンに、氾濫危険情報や氾濫発生情報など一部の災害情報が一斉配信されます。

公共機関などが発信する情報を入手

- ◆気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/> 最新の気象情報や台風・大雨・土砂災害・竜巻に関する情報、今後の推移など。
- ◆国土交通省「川の防災情報」ホームページ <https://www.river.go.jp/> 全国の水位や雨量、危険性が高まっている河川、洪水予報など。
- ◆荒川上流河川事務所 <https://www.ktr.mit.go.jp/arajo/>
- ◆利根川上流河川事務所 <https://www.ktr.mit.go.jp/tonejo/>

防災用伝言サービス それぞれで登録された伝言を相互に確認できます。

- ◆NTT 災害用伝言ダイヤル(171) 固定電話・IP電話・携帯電話・PHSから、伝言を録音・再生できます。録音時間は1伝言あたり30秒です。
- ◆NTT 災害用伝言板(web171) <https://www.web171.jp/> 携帯電話・スマートフォン・インターネットから、伝言を文字入力・確認できます。文字数は1伝言あたり100字以下です。
- ◆携帯電話・スマートフォンの災害用伝言板 携帯電話各社(NTTドコモ、au、ソフトバンク、ワイモバイル)の携帯電話・PHSから伝言を文字入力できます。

災害用伝言サービス それぞれで登録された伝言を相互に確認できます。

登録 「171」をダイヤルして音声案内に従って「録音」を選択し、「伝言を残す電話番号」を入力する(録音は確認番号の設定も可能)

確認 「171」をダイヤルして音声案内に従って「再生」を選択し、「伝言を確認したい電話番号」を入力する

登録 「web171」にアクセスし、トップ画面で「伝言を残す電話番号」を入力して「登録」を選択し、伝言を登録する

確認 「web171」にアクセスし、トップ画面で「伝言を確認したい電話番号」を入力して「確認」を選択する

使用方 各携帯電話のトップ画面から「災害用伝言板」にアクセスし、画面の指示に従って操作をしてください。

浸水想定シミュレーション

この浸水想定シミュレーションは、利根川・荒川・小山川の想定されている地点で破堤した場合、どのくらいの時間でどこまで浸水するかをシミュレーションしたものです。氾濫水は台風や大雨が過ぎた後に到達することがあるため、河川の上流域を含めた広い範囲の情報を確認しましょう。

利根川のシミュレーション

河口から157kmの場所が破堤した場合(蓮田市に氾濫水が一番早く到達する想定破堤地点です)

10時間後 22時間後 16日7時間後

河口から168.5kmの場所が破堤した場合(蓮田市に氾濫水の影響がある想定破堤地点で最も遅い場所です(高い場所でも蓮田市に影響があります))

26時間後 60時間後 6日19時間後

荒川のシミュレーション

河口から65.2kmの場所が破堤した場合(蓮田市に氾濫水が一番早く到達する想定破堤地点です)

11時間後 24時間後 4日21時間後

河口から74.8kmの場所が破堤した場合(蓮田市に氾濫水の影響がある想定破堤地点で最も遅い場所です(高い場所でも蓮田市に影響があります))

30時間後 54時間後 3日14時間後

小山川のシミュレーション

利根川合流部から1.0kmの場所が破堤した場合(小山川で破堤した場合の最も影響のある想定破堤地点です)

26時間後 51時間後 6日15時間後

浸水継続時間

凡例

- 12時間
- 24時間(1日)
- 72時間(3日)
- 168時間(1週間)
- 336時間(2週間)
- 672時間(4週間)

この浸水継続時間は、利根川・荒川・小山川が破堤した後、どのくらいの時間、浸水が続くかをシミュレーションしたものです。浸水が長期間続く場所に住んでいる人は、水や食料、着替えなどを持っての限り用意し、立ち退き避難を行いましょう。

洪水時の避難行動

予想が可能な台風などは事前対策が行えますが、ゲリラ豪雨など突発的な災害では自分たちの判断が重要です。避難情報が発令されていなくても、その場に留まると危険と判断したら、自主的に避難を開始してください。

基本は立ち退き避難、緊急時の屋内安全確保

風水害での避難行動では、災害が発生する前に危険性がある場所から避難する「立ち退き避難」が基本です。「立ち退き避難」を行う余裕がない場合や、悪天候などにより外出することが危険な場合は、「屋内安全確保」でいのちと身体を守りましょう。

避難勧告などが発令されていなくても、その場に留まると危険と判断したら、自主的に立ち退き避難を開始してください。

避難する際の注意点

正確な情報収集と自主的避難 ラジオやテレビ、携帯電話などを利用し、最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

避難の呼びかけに注意 危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをします。その場合には、速やかに避難してください。

避難の前に確認 避難する前に、ガス、電気、火の元を点検しましょう。避難場所を確認し、途中で家族が離散したときの行動も決めておきましょう。また、高齢者や知人などに避難する旨を連絡し、避難先を確認しましょう。

動きやすい服装で、2人以上での避難 避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。できる限り単独での避難は避け、近所まで声をかけ合って避難しましょう。

水面下の危険にも注意 避難の際は、できる限り高さのある道路を避けるようにしましょう。浸水場所では、側溝やふたがはずれたマンホールなどに注意しましょう。

逃げ遅れたら高い建物に避難 万一、逃げ遅れて避難場所まで行く余裕が無い場合は、近くの丈夫な建物より高い階に避難して救助を待ちましょう。建物の2階部分でも場所によっては危険な場合があります。

車での避難は避け、堤防に車を放置しない 車での避難は緊急車両の通行を妨げますので、特別の場合を除きやめましょう。また、車を堤防や道路に放置すると、水防活動の妨げになりますので、やめましょう。

安全な避難経路での避難を あらかじめ、自分たちで避難所までの避難経路を複数決めておき、その中から安全に通行できる経路で避難しましょう。